



が午前中で午後が作業の時もありま  
す。雨の降った日は、案内だけで、  
午後は明治天皇記念館見学、靖国神  
社参拝等でした。平成六年の時には、  
天皇陛下がヨーロッパへ訪問されて  
留守でしたので、表御座所の南庭で、

男子は笹竹の剪定、女子は芝生内の  
雑草引きをしました。自然の高低を  
そのままの庭園で広々として落ちつ  
いた環境でした。園芸の拠点には、  
大小の盆栽が並べてあり、徳川三代  
將軍家光のお気に入り、背丈以上  
の立派な品がありました。宮中の  
行事に飾られると聞きました。平成  
十年の時、両陛下と和の宮様の拜謁  
がありました。各団体の長とお話が  
ありました。神戸の復興が進んでい  
ますかと震災の事を気づかって下さ  
いました。赤坂へ奉仕に行った時に  
は、皇太子殿下と妃殿下の拜謁もあ  
りました。午後五時頃には終わしま  
すので、都内見学等も出来ず。N  
HKへ行った時、スタジオパークの  
中で、ドラマのセットを見た後、放  
送の体験コーナーがあつて、ラジオ  
放送の体験をさせて頂きました。○  
○地方の天気予報、二三行読んだら  
原稿を返して放送、見ると少し前の  
所に原文が表示されてありました。  
手許の原文が写し出されて居りまし

た。放送が終わったら西村アナウン  
サーと書かれた写真を頂き記念にな  
りました。国会議事堂も地元の方の  
案内で気軽に見学出来てうれしかつ  
たです。

次に昭和天皇の御仁徳についてお  
話し致します。東京の宿舎へ着いた  
夜、東京在住の先輩が侍従の方から  
聞かれた陛下の日常生活等を話して  
下さいました。陛下は常に国民の幸  
福と平和な世の中を祈って居られま  
した。

天地の神にぞ祈る

朝なぎの海のごとくに

波立たぬ世を

我が庭の宮居に祭る

神々に世の平らぎを

祈る朝夕

御製にこめられた平和への祈り。  
支那事変の始まる前に、日本人保護  
の名目で軍隊を支那本国へ派遣した  
事について、「どこの国でも自国内  
に外国の軍隊が居る事は好ましくな  
いと思う。だから軍隊を引き揚げた  
方がよいと思う」と話されたと聞き  
ました。軍を引き揚げていたら戦争  
はなかったと思います。  
次は終戦の御決断によって本土決  
戦は無く平和への道が開かれました。  
もう一月も早ければとも思う事です。

マッカーサー元帥との会見の事は  
新聞等でご存知の事と思いますが「戦  
争の責任は全部私にあります。どの  
ように処分されてもかまいません。  
今国民は飢えに苦しんでいますから  
食糧の援助をお願いしたい」と話さ  
れたと聞いて居ります。帰られる時  
には、元帥も丁寧な敬礼をして送ら  
れたとの事です。

次に国民の事を思い質素な生活を  
して居られます。戦後復興が進んで  
暮らしがよくなってきたので、御所  
の造営をしましよいかとお伺いした  
時に、「全国で防空壕で生活して居  
る家族が無いか確かめて欲しい」と  
の事で、調べた所無い事が確認出来  
たので、「ありません」と答えます  
と、「それでは御所を建てて下さい」と  
と御返事があり、陛下の防空壕の生  
活が終わったと聞きました。テレビ  
が開発されて、陛下へ献上された時  
も「国内でどの程度普及して居るか」と  
お尋ねになり必要な時だけ御利用  
されたと聞きました。同じネクタイ  
をすり切れるまで使われて居られま  
した。陛下は着物を着られた事がな  
いので、ある方が陛下に着物を着て  
頂こうと会をつくって、おすすめし  
ましたが「二重になつてもつたいな  
い」との事で実現出来ませんでした。

だから昭和天皇は着物をきられた事  
がございませぬ。冷夏の時「今年は  
涼しくて暮らしやすいですね」と陛  
下に申し上げたら「そう、でも東北  
や北海道の稲作等大丈夫なのかね」と  
心配されたそうです。

天皇の言葉の意味の中に神に祈る  
人との意味が含まれて居ると聞いて  
います。私達は勤務が終つて家へ帰  
つたら、すぐ服装をかえて、くつろ  
ぎますが、陛下は表御座所から御所  
へ帰られても、宮中三殿に仕えて居  
られる女官から扉を閉めましたとの  
連絡があつてからネクタイを外して  
くつろがれると聞いております。夏  
の暑い日は、日が暮れて涼しくなる  
まで神様も暑かろうと扉が閉まりま  
せん。陛下は服装はそのまま居ら  
れます。宮中の祭礼は吹上御苑にあ  
る宮中三殿で行われます。陛下がお  
祭りあそばす大変重いお祭り大祭が  
年に十回程、小祭、掌典長をしてお  
祭りを行われしめられ、陛下が御拜礼  
になる形の祭りが十回程。毎月一日、  
十一日、二十一日の旬祭があります。  
更に侍従をして毎朝の御代拜があり  
ます。お正月元日、四方拜、歳旦祭  
と続いてございます。四方拜は御三  
殿の西側に続いております神嘉殿の  
前庭で行われます。午前五時半が四

方拜の時間です。約二百米程離れた御潔斎所で、冷水とぬるま湯を交互に何回も浴びられて、身も心も清められてからモーニングコートを召されて、御三殿の北側にごさいます綾綺殿にお入りになり、そこで御装束にお召し替えになって、神嘉殿の南庭にお出ましになります。庭上に板敷の所があり表一面に白布を張ってありその上に、真薦を敷き屏風を立て、お座りになられる場所に、三尺角（九十糎四方）の厚畳の御拜座を敷きます。陛下はここにおつきになり、南西の方向、伊勢神宮の方向に屏風をすこし開けてありますので、その方向をまず御拜礼あそばされ、それから天地四方を御拜礼になります。これが四方拜でございます。そうして、賢所にうつりまして歳旦祭掌典長が祝詞をあげたのちに御参進になりまして、皇霊殿、神殿をあわせ、三殿に御拜礼になり式は終わります。その頃東の空が白みはじめ、庭燎（かがり火）と金燭（ぼんぼり）の明かりが次第に淡くなり新年の朝が訪れます。歳旦祭には皇太子殿下も三殿にご拜礼されます。四方拜、歳旦祭の行われて居る間、各皇族方は、各居間の窓を明けて、お慎みになつて居られます。秋の新嘗祭。こ

れは宮中祭典の内でも一番重いお祭りと聞いて居ります。八紘一宇、神武天皇即位の時に、大きな一つ屋根の下で家族のように暮してゆこうと言う肇国の精神、常に国民の幸福と安寧を祈つて居られる陛下、祈られている事に大きな感動を受け、朝の礼拝の時、両陛下と御皇室の弥榮をお祈りして居ります。このように良い国柄に生まれ生活出来る事に感謝して居ります。終わりにあたりまして、今後も健康で長生きして頂きたいと思つて「腹八分、くよくよするな無理するなおしゃれ忘れず毎日歩け」の詩をお伝えします。腹八分がよいとわかつていても中々実行出来ませんが、気づいた時に実行して下さい。おしゃれ忘れずは、もう年令だからと思わずにまだ若いと思つておしゃれしましょう。毎日歩く事がよいのですが、よく身体を動かす事です。私も整形のお医者さんに、入浴のあと痛い所まで曲げなさいと言われて実行して居ます。皆様の御健康と御活躍をお祈り致します。



#### 付記

秋の新嘗祭。これは宮中祭典の内でも一番重いお祭りです。夕の儀と暁の儀があります。夕の儀は午後六時から暁の儀は午後十一時から午前一時まで行われます。まず、御祭服という純白の絹のお装束を召された陛下が綾綺殿をお出ましになり、脂燭（たいまつ）を持った侍従が先行し、宝剣を棒持する侍従について陛下がお進みになり、お後ろには陛下のお裾を持つ侍従、神璽（八坂瓊勾玉、三種の神器の一つ）を別の侍従が棒持し、お列が進み、神嘉殿の正面から殿内に陛下が入られる。陛下は一人でそこから更に白麻の壁代に金燭の灯がほのかに映える本殿母屋にお進みになり神座と相對し御座に正座される。これが夕の儀、暁の儀の二度行われます。この祭典は大祭です。すから、両方ともお告文があるのですが、その前に陛下が御自分で神座に神饌をお供えになります。これがなかなか、昔からのお手順が決まっております。柏の葉を重ねまして竹のひごでぬいきました格好の葉盤という皿のようなものに小盛りを盛りつけてお供えになるのですが、これが大変時間がかかりまして、ずっと御正座でその御所作をなさつてお

でになります。お供えが終わりますと、陛下の御拜は両段再拜と申しまして、起拜二度、次に坐せられたまま深揖、次に起拜二度をあそばされる、つまり再拜を二回、計四度御拜をなさいます。それからお告文。普段ですとお告文は掌典長が懐中して御奏上の時に差し上げるのですが、新嘗祭では最初からお持ちになられます。お告文が終了しますと、「御直会」と申して神饌の米と粟との御飯と御酒とを陛下がお召し上りになられます。次に神饌をおさげして終了致します。

天皇さまとまつり 永積寅彦著より  
本文中の四方拜も引用致しました。



両陛下のお住まい「吹上御所」